会　議　録

会議の名称		令和８年９月定例教育委員会会議	
開催日時		令和８年９月 24 日　15 時 00 分開会　16 時 50 分閉会	
開催場所		つくば市役所本庁舎２階　防災会議室３	
事務局		教育局教育総務課	
出席者	委員	教育長　森田　充 委　員　倉田　廣之 委　員　和泉　なおこ 委　員　坂口　まり 委　員　手打　明敏	
	委員以外の出席者	教育局長　久保田　靖彦 副教育長　根本　智 副教育長　柳下　英子 教育局次長兼学務課長　森田　信道 教育局次長兼中央図書館長兼健康教育課長　柳町　優子 教育局次長兼教育施設課長　勝村　英樹 学校教育審議監　三輪　俊一 学校教育審議監兼学び推進課長　久松　和則 教育総務課長　山岡　めぐみ 特別支援教育推進室長　中島　澄枝 教育相談センター所長　須藤　文雄 総合教育研究所長　相澤　英樹 生涯学習推進課長　澤頭　由紀子 文化財課長　石橋　充	
公開・非公開		□公開　□非公開　■一部公開	傍聴者数　11 人
会議次第及び議事		１　開会 ２　議事録承認 ３　教育長の報告 ４　案件 (1)請願第１号　つくば市立幼稚園の拙速な再編計画の見直しについて（公開） (2)議案第 49 号　諮問について（公開）	

	(3)議案第 50 号　つくば市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について（公開） (4)報告第 34 号　臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開） (5)報告第 35 号　臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開） (6)報告第 36 号　臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開） (7)報告第 37 号　臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開） (8)報告第 38 号　臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の人事発令について）（非公開） ５　その他 ６　閉会

◎会議の大要

１　開会	
森田教育長	定刻になりましたので、ただいまから令和８年９月の定例会を開催いたします。本日も委員の皆様には大変お忙しい中お集まりをいただきましてありがとうございます。スムーズに進行して参りたいと思いますので御協力をお願いいたします。
２　議事録の承認	
森田教育長	初めに議事録の承認ですが、令和８年８月定例会議事録を委員の皆様に事前に確認していただいております。その後修正等がないようでしたら議事録を承認することとしたいと思いますがよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するとしまして、署名人を和泉委員にお願いします。

３　教育長の報告	
森田教育長	今回７月から８月の夏休み期間に行われました、毎年恒例のつくばちびっ子博士の状況について、報告をさせていただきたいと思います。子供たちはつくば市内の研究機関等の常設展示、それからイベントに参加し、最先端の科学技術に触れながら楽しく学ぶ、さらに現地見学や動画視聴でポイントを獲得すると記念品を受け取ることができ、参加対象は全国の小中学生、参加研究機関等は 41 機関です。現地見学者数は、5 万 8,491 人、昨年は 4 万 9,470 人でしたので、9,021 人の大幅な増ということです。それから、動画視聴の満足度も約 88%、昨年同様に高い満足度を維持することができました。紙のパスポートからデジタル専用サイトへ移行して今年で３年目になりますが、現地見学等の絵日記をデジタル上で記録するなど、子供たちの間にデジタルも定着している様子が見られました。つくばちびっ子博士終了後は、子供たちのデータを学校ごとに提供し、児童生徒が多く訪れた施設に改めて視点を変えて訪問するなど、夏季休業後の教育活動に活用していきます。データを活用することで、学校内外を繋ぐシームレスな学びに繋がっています。平成 11 年から続くちびっ子博士ですけれども、今年で 27 回目ということになりました。新たな研究機関の参加、それから新コンテンツの導入など、基本的な枠組みは大切にしつつ、時代に合わせて少しずつ内容を更新し、今後も子供たちが科学への興味関心を持ち続けられるよう進化させていきたいと思っています。前にもお話しましたけれど、成人式の際に会った子供、もう子供じゃないすね、成人の方に、「将来の夢は。」と聞いたら、「科学者になります。小さい頃にちびっこ博士で興味を持ったことを、ずっとそれからやっているんです。」という話も伺っていますので、人生に関わるような大きなイベントになることもあるのだなと思いました。訪問者が増えたことも、いいことだったのではないかなと思っています。報告は以上でございます。 それでは、本日の案件の進め方ですけれども、今回は請願の提出がありました。初めにこの請願案件を議題として、そのあとに議案の非公開案件を先に審議し、最後に公開案件と言う順番で審議をしたいと思います。今回の案件の中では、報告の第 34 号から第 37 号までが人事案件で非公開となります。それ以外は公開として進めたいと思いますが、委員の皆様はそのように進めてよろしいでしょうか。

委員一同	はい。
(1) 請願第１号　つくば市立幼稚園の拙速な再編計画の見直しについて（公開）	
森田教育長	では最初に請願１から順に進めて参ります。請願については、つくば市立幼稚園の拙速な再編計画の見直しについて、でございます。内容等を精査し、受理をいたしました。つくば市教育委員会請願処理規則第４条により、教育委員会は報告を受けたときは、これに対し採択しなければならならないとありますので、この場で検討を行い、採決を取りたいと思います。
倉田委員	本日請願者がお越しになっていますので、できましたら請願者から説明をお願いできればと思っていますが、いかがでしょうか。
森田教育長	ただいま倉田委員からそのような御提案がありましたけれども、規則の第５条にも、教育委員会は必要があると認めるときは請願等をしたものに対し出頭を求め、直接その趣旨を述べさせることができるとありますので、説明を求めることとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	では異議がないようですので、請願の方の説明をお願いしたいと思います。では説明をよろしくお願いいたします。
請願者１	本日はこのような機会をいただき誠にありがとうございます。（請願者１から自己紹介）。何分このような場所は慣れておりませんので、読み上げとさせていただきます。共同代表とさせていただいておりますので、まず私から説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。 ９月３日に吾妻幼稚園を含む公立幼稚園の具体的な集約案が示されました。そして、私の子供から「吾妻幼稚園なくなっちゃうの、僕の宝物の場所をなくさないで。」と言われました。その言葉を聞いてから何か

	できることはないだろうかという思いで、私たちは本件と向き合い行動してきました。私は皆様のような教育分野の専門家ではありません。今回のことで提言書や議事録、幼稚園教育要領や教育大綱も初めて読ませていただきました。その中で、幼児教育の大切さと同時に、公立幼稚園のあり方を考えることの難しさを改めて感じました。そして、何度か保護者説明会に参加させていただき、様々な方の話を伺う中で強く感じたことがあります。それは、公立幼稚園のあり方は市全体の人口動態や園児数といった数字だけではなく、それぞれの地域の実状やその園が果たしてきた役割も含めて考える必要があるのではないかということです。つくば市はとても広くて、地域によって人口動態も、子育て環境も、幼稚園に求められている役割も異なります。私が関係する吾妻には吾妻の事情があります。そして、他の地域にもそれぞれの事情や思いがあるはずです。ですので、一律に結論を出すのではなく、それぞれの地域について、行政と保護者、そして地域の方々が丁寧に対話しながら考えていく必要があるのではないかと考えました。 　私たち子育て世帯は日々の生活に追われています。子供が寝た後にようやく本件について考えたり資料を読んだりする時間がとれることも少なくありません。だからこそ今回声を上げている私たちのような者だけではなく、声を上げたくても上げられない保護者や、十分な情報を得られていない家庭の声にもぜひ耳を傾けていただきたいと思います。 　吾妻幼稚園には海外にルーツを持つ子供たちも多く通っています。私の子供も外国語を教科として学ぶわけではなく、日々の集団生活の中で、国籍や文化の違いを自然に受け入れながら育っています。また、工作や遊びなどを通じて、自分で考え、自由に発想する力も育てていただいていると感じています。私はこうした日常の中にこそ幼児期の豊かな教育があるのではないかと思っています。将来息子には多様な人たちを自然に受け入れ、自分自身の豊かな発想で人生を切り開いていける人に成長して欲しいと思っています。その土台を作ってくださっている吾妻幼稚園の先生方と教育環境には本当に心から感謝しています。もちろん、園児数が減少している状況や将来的な公立幼稚園のあり方を検討する必要があることも理解しています。だからこそ、これからの再編が単に園児数だけで判断するのではなくて、それぞれの地域の特性や長年培われてきた教育環境、地域との繋がり、公立幼稚園だからこそ果たして

	きた役割までも含めて検討し、それらが失われることのない再編にしていただきたいと思っています。そして現在２年保育であることだけを理由にその園の将来の可能性を狭めないでいただきたいです。３年保育を導入した場合、どの程度の利用ニーズがあるのか、預かり保育などを充実させた場合選ばれ方がどのように変わるのか。今ある姿だけで将来を決めるのではなく、必要な機能を加えた場合の可能性も含めて、長期的視野で公立幼稚園のあり方を検討していただきたいと思っています。また、２年保育だからという理由で公立幼稚園が選ばれない可能性から３年保育の導入も重要な選択肢の１つと考えています。子供たちにとって何がよりよい環境なのか、十分な時間と情報そして地域との対話の中で考えていただきたいと思っています。 　これからのつくば市の子供たちがそれぞれの地域で豊かな幼児教育を受けられるよう、慎重かつ丁寧な検討をお願いしたく、私からの請願とさせていただきます。
請願者２	貴重な時間をいただきましてありがとうございます。（請願者２自己紹介）。毎朝四季を感じられる景色の中を子供と歩いて登園すると、園長先生が必ず園門に立ってくださっています。おはようございますと挨拶を交わし、先生が一人一人の子供の表情を見ながら迎えてくださる、そんな何気ない毎日に私は公立幼稚園の温かさを感じています。幼稚園が終わると、子供たちは吾妻幼稚園で遊びまして、そこには特別な遊具があるわけではないのですが、それでも子供たちはセミの抜け殻を集めたり穴を掘ったり石を積んだり、その日その日で自分たちで遊びを見つけます。何もないからこそ自分たちで考え創造し、友達と一緒に遊びを作っていく、遊んでも遊んでもまだ帰りたくない。もっとお友達と一緒にいたいと言います。私はそんな子供たちの姿を見るたびに日々幸せを感じています。そして吾妻幼稚園で過ごす中でもう１つとても大切だと感じていることがあります。 　それは少人数だからこそ生まれる人と人との繋がりです。先生方は一人一人の子供の性格や興味や日々の小さな変化まで知ってくださっています。そして保護者も自分の子供だけではなく、他の子供たちのことを自然と知るようになります。あの子はこんなことが好きなんだ、こんなことができるようになったんだ、そんな一人一人の成長を先生と保護者

	みんなで見守り、みんなで喜ぶことができます。誰かの子供ではなく、そこにいる子供たち、みんなの成長をみんなで見守っている、子供にとって吾妻幼稚園はまるで１つの家族のような場所です。もちろん人数の多い園には人数の多い園の良さがあると思います。でも人数が多くなれば、どうしても得にくくなってしまう関係性もあると思います。一人一人に目が届き、一人一人の個性を知り、その子の小さな成長を周りのみんなで喜ぶことができる。それは少人数だからこそできる、守ることができる教育環境の１つの大切な価値ではないでしょうか。だから私はこの環境を壊さないでほしいです。効率や人数だけで測ることができない子供たちの育ちがあります。今ここにあるものを一度なくしてしまえば、同じものをもう一度つくることは簡単ではないと思います。子供たちが毎朝安心して園門をくぐり、先生やお友達、保護者みんなで見守りながら育っていく。このままこの吾妻幼稚園に今ある温かな教育環境をどうか１つの大切な価値として見ていただきたいです。そしてこの環境をこれからの子供たちにも残していただきたい、それが今、教育委員会の皆様にお伝えしたいことです。よろしくお願いします。
森田教育長	ありがとうございました。今のような趣旨によりまして、請願書に要望事項というのが２つあります。１、市立を「いちりつ」と言わせていただきますが、市立幼稚園のあり方について保護者や地域住民との十分な議論が尽くされていないため、拙速に計画決定をしないこと、２として市立幼稚園の集約に際しては、各地区における将来の人口動態、とりわけ就学前児童数の見通しなど、計画の根拠となる具体的なデータを検証提示した上、保護者や地域住民の意見も反映した計画案を策定すること、この２点が要望事項となっております。 まず請願者がいらっしゃいますので、請願者の方々に対して直接質問したいことなどありましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。
手打委員	今の御説明は吾妻幼稚園が中心でしたが、請願自体はつくばの公立幼稚園についてですよね。私も請願書を読ませていただきました。皆様方の請願の趣旨を理解するために、いくつか質問させていただきます。 まず、この要望事項の 1 につきまして、十分な議論が尽くされていな

	いということですが、十分な議論が尽くされるというのはどういう状態なのかということが１点です。 　それから２番目に、皆様方が、保護者や地域住民の意見を反映した再編計画の計画案を作ってほしいという御要望についてです。市立幼稚園の再編には公立幼稚園の良さをどう守っていくかということと、併せて限りある市の財政という問題がありますよね。財政面の問題については、皆様方はどのようにお考えになっているのかということです。まずその２点について御説明いただきたいと思います。
請願者１	御質問ありがとうございます。十分な議論が尽くされるというのはどのような状態かというのは、非常に難しいことかと思いますが、その基準というのは個人個人で考え方が違うとも思います。今回再編計画案をいただいたのが９月の頭で、その内容について事前に７月にそういう方向性の計画を進める可能性があるという話はあったのですが、その時点で何を聞いても「まだ何も決まっていないので」ということで、何の情報提示もありませんでした。その中で、急に９月になって「再編計画案という形で集約します、３年保育はここで始めます、ここは２年保育のままでいきます」というのを提示され、「９月末にはもう策定します、10 月には園児募集を開始するのでそれまでには決めたいのでこのまま進めさせてほしい」っていうものこれが十分な議論と言えるかというと、ちょっと違うのではないかというところで、「十分な議論が尽くされていない」というふうに記載をさせていただきました。十分な議論がどのくらいかというのは、地域によって抱える問題や課題も違うと思いますので、例えば、今回要望書を一緒に出させていただいた筑波幼稚園の方々は、こども園化の議論をしてほしいというふうに書いておりますし、他の園だと他の園でまた３年保育をしてほしいなど、園によって事情は全く違うので、それによって関係各所との調整や議論にかかる時間というのは違うと思うので、十分な議論がどれだけかというのは一概には申し上げられないかなと思っています。 　それから質問の２点目ですが、財源について、市が抱えているいろいろなところに手をかけないといけないことというのは、私たちでは計り知れないくらい大変なことだというのはわかっております。ただ、例えば３年保育については、2019 年に幼稚園無償化がスタートして私立幼稚

	園に園児が流れたころから３年保育にしてほしいという要望は、公立幼稚園の方でも保護者からの声が結構あったにも拘わらず、何年間かにわたってそれを導入しない間にどんどん園児数が減ってしまったという経過があると私たち公立幼稚園に通わせる親は思っています。それが今年度になって急に「公立幼稚園の園児数が減ったから、財源がないから、今すぐ集約しないと３年保育にはできないので集約します」と言われても、計画を立てられる時間はあったのに、今時点の一定の数字だけで財政的に厳しいからということで、一方的に突きつけられても困ります。先日説明会でも質問が出たのですが、「集約して浮いた施設管理費などをどのように使う予定なのか」と質問しても、それに対しての回答を得られませんでした。集約が必要だとしても、ではなぜこういう集約をして、その財源をどのようにやりくりしてやるかというところまで提示していただかないと、納得というのはなかなか難しいのかなとも思っています。
請願者２	十分な議論というところなのですけれども、今回の計画案で吾妻幼稚園を竹園西幼稚園に集約するといったところでもですね、理由というものが示されたのですけれども、それに私たちは納得しておりません。敷地面積や人数ですとか、吾妻小学校と吾妻幼稚園の繋がりということで、吾妻小学校にしか日本語教室はないので、外国の方の受け皿としての役割とか、矛盾が何点かあると思いまして、そういう問題を解決してから、次のステップに進んでいただきたい。外国の方が今吾妻小学校に14%いて、４年後には新しい校舎が約２倍の規模になって建て替えられるのに対して、吾妻幼稚園はなくなっていく。それはどうしてそういうことになるのかというのがまず 1 点です。2033 年までに 1,500 世帯マンションが建つにあたって、３年保育でぜひチャレンジさせていただきたいなっていうのが正直なところですが、2033 年までに 1,500 世帯ぐらい増えるという見込みがあるので、竹園西幼稚園の周辺ではそういう予定が今のところないので、そういうところで、私たちは、単純に世帯数が増えて、公立幼稚園に来ていただける保護者や園児が増えるだろうなとは思うので、そこまで待っていただけないのか。それで今、財源がないということはもちろん承知しているのですが、その３年保育をしない状態で赤字だから、民間のようにすぐ潰そうというのは、ちょっと突然す

	ぎるのではと思います。もちろん赤字だと経営していけないというのはわかるのですけども。そこが今スタートで２年保育で財源がない、もう潰さないといけない、と言われても、私たちも諦めるわけにはいかないので、吾妻幼稚園の PR をしていきたいなと思っていますので、ビラを配ったりしています。しかし赤字でいいとは全く思っておりません。以上です。
坂口委員	御説明どうもありがとうございました。子育て中のお忙しい中、皆さんと一緒にこのように意見をまとめて出すというのは大変なことだったと思いますが、読ませていただいて、お気持ちがすごく伝わってくるものでした。 １点、今後の参考としてお伺いしたいのですが、「少人数の良さ」とおっしゃっていましたが、私自身も小規模園の運営を行っておりますので少人数の良さというのは非常に理解できます。そして大人数の良さというのも周りから聞いており、そちらも感覚的にもわかります。今回の集約化にあたって、少人数の具合が地域によって大分違ったと思いますが、あり方に関する提言の中で一学年６人以上というところを基準に今回まとめたと思いますが、吾妻幼稚園はぎりぎり基準を満たしている状態ですよね。その人数は感覚的に少ないと感じますか。御自身の感想としては、多分少ない良さを感じていると思いますが、皆さん周りでこういう話があった際に、何人くらいだったらそんなに少ないと感じないなどの御意見がもしあれば伺いたいのですが。
請願者２	ありがとうございます。話し合ってはいないのですが、一学年６人、二学年で 12 名いれば、少ないと感じることは個人的にはないです。ただ、正直 PTA がありまして、やっぱり６人くらいいないと、PTA の仕事が結構負担にはなりますので、３人とか４人だと厳しいではあろうなとは思います。ただ５人ずつくらいでしたら少ないとは感じないですね。
請願者１	具体的な人数となりますと、吾妻幼稚園は今 23 名おりまして、公立幼稚園の先生方がとても工夫をしてくださって、年中と年長が非常に仲良く遊ぶ環境を作ってくれているので、年中に何人年長に何人っていう区分をしないで申し上げると、12 人いれば６人対６人でドッジボールなど

	の遊びもできるという話も聞くので、幼児教育の中で必要な集団での生活というものはある程度成り立つのかなとも思いますが、他の地域から途中で転園してきた子でも、年長なのに年中と遊んですごいなと、最初はびっくりするぐらい本当に上手く交わっている保育をしてくださっているので、一概に何人と申し上げられないのですけど、そういう遊びを含めると、12 人くらいとかなと思います。
手打委員	吾妻幼稚園の保護者有志からの請願書、要望書についてお聞きしたいです。要望事項の第 1 項目が、「拙速な集約化を止め、休園、集約方針を確定しないこと」ということで、そのために需要を確認するとか、検証をしてほしいという御要望がありますよね。そして３歳児保育を一定期間実施してその検証をする、これが第１ですよね。次のページの、３項目目になりますが、そこに「吾妻地区と竹園地区を別の生活圏教育圏として評価する」ということで、これは進学先の小学校区とか、等々が書かれておりまして、「両地区を１つの需要圏として扱わず、それぞれの地区における幼児教育の重要性と公立幼稚園の役割を個別に評価してください」という要望がありますね。これについて、要望事項の最初の１と２のところは、地域の需要を確認し、かつ、３歳児保育を一定期間とあります。それから３項目目にある吾妻地区と竹園地区の生活圏とか教育圏が異なるでしょうということは、１や２が満たされたとしても、３項目を見ると違うわけですよね。１項目、２項目と３項目目の関係性で、皆さん方としてはどちらを優先されますか。
請願者２	優先と言われますと吾妻幼稚園で十分な議論というのが先ほどと少し重なってしまうのですが、私は 2033 年まで人口が一気に増えると思っていますので、そこまで見ていただきたいと思っています。その頃まで見ていただきたいと思っていまして、３年保育で 2033 年、すべてができ上がった後でどのぐらいの需要があるかっていうことを見ていただきたいとは思っております。それで優先といいますか、竹園西幼稚園と吾妻幼稚園の違いと言いますか、竹園西幼稚園で来年の４月から３年保育になりますので、そこで需要がたくさん出れば、それはそれでよいと思うのですが。どちらを優先と言われるとまずは吾妻幼稚園で試していただきたいですし、役割というか、竹園西幼稚園は竹園西幼稚園の良さがあっ

	て、吾妻幼稚園は吾妻幼稚園の良さがあって。ただ、筑波大学に所属する外国の方たちがバスターミナルやつくば駅から歩いて来られますので、その方たちは 350～400 メートルくらい遠くなってしまうので、不便になります。
手打委員	要するに（３）の吾妻地区と竹園地区というのは別の生活圏・教育圏として評価するという、こちらを重視すれば、必然的に再編はやめてほしいということになりますよね。もう一方で、１項目目と２項目目を見れば、いろんな地域の将来の需要や３歳児保育を、今ですと 2033 年まで行った上で、その結果によっては、再編もやむを得ないということもあります、というニュアンスがここには込められていますよね。ですから、それが仮に再編やむなしというと、１項目２項目のところであったときに、３項目はどうなってしまうのかということです。ここを譲れないとなれば、つまり再編はそもそも駄目だというご意見になりますか。
請願者１	どこまで申し上げていいのかというところなのですが。
手打委員	僕の理解が間違っていることは間違っているとおっしゃっていただきたい。
請願者１	先ほど 2033 年までと話がありましたが、2033 年の頃に大きなマンションができる、子供を持つ世帯の方たちが必ずしもすぐに幼稚園に入る世帯ではなく、乳児や未就園児と共に入居するケースもあるので、私は 2033 年よりもちょっと必要かなと思っています。葛城小の事例は皆さん御存じかと思いますが、2019 年に春日学園ができたときに、吸収合併のような形で葛城小学校がなくなるという話がって、学校を残してほしいという声で残した結果、現在 500 人規模のマンモス小学校になっています。葛城小学校がもしその時に春日学園に吸収されていたら、今現在春日学園だけでは賄いきれない小学生があのエリアにはいたことになります。逆に、賄いきれない小学校に入れないとわかったら、今みたいにつくば市への子供のいる世帯の人口流入もなかったのかなと思うので、やはり公立幼稚園も、義務教育の幼児教育としての延長というふうに考えますと、そういうエリアには公立幼稚園があるっていうのは１つの大き

	な価値なのではないかと思っています。特に他の地域からマンションに越してくる方、都心部から来る方など車がない世帯の方もいらっしゃるので、そうするとやはり徒歩や自転車で通える生活圏に公立幼稚園があるというのは、つくばとしての大きな価値の１つに繋がるのではないかと捉えています。吾妻地区と竹園地区を別に評価してほしいというのは、そもそも小学校が明確に竹園西小学校と吾妻小学校と学区が分かれていまして、それが土浦学園線という非常に大きい幹線道路で分けられているんですね。土浦学園線沿いで明らかに吾妻小学校の方が近いマンションの方も竹園西小学校まで遠い距離を通っている。そのくらい明確に分けられているのは、幹線道路を跨ぐことの危険性なども踏まえて、学校が創られたのではと思います。そこに３年保育を始めて、今の２年保育以上に小さい子供も親が手を引き、場合によってはその下の子を抱っこしてとかベビーカーに乗せて通うというのは、非常にリスクを伴うものだと思いますし、ペデストリアンデッキが整備されているといっても、土浦学園線は大きい道路ということもあるのか、橋の勾配もあるので、そこを園児が歩くというのは非常に体力的にも難しいことかなと思います。特に吾妻幼稚園は天久保のエリアから来る方もいるので、そこから歩いて通った場合にはプラス 700 メートル遠くなります。それは、大人だけなら歩けない距離ではないですが、園児を連れてよそ見をしながら、途中で「疲れた、抱っこ」とか言いながら連れて歩くというのは、今仮に天久保から 40 分かけて吾妻幼稚園に通っている家庭からしたら、プラス 700 メートル、往復で大体１日何時間通うのか、という問題とかもあるので、それで生活圏・教育圏としても別のものとして評価してほしいという旨を記載させていただきました。
手打委員	今の御説明で要望の理由のところ、（４）吾妻地区と竹園地区の進学先小学校のことは今の御説明でわかったのですが、読む限りだと、上から４行目のところで「複数の小学校区の幼児が 1 つの幼稚園に通い、進学時に分かれることになる。」それについて、それは子供たちにとってあまりいい影響はないのではないですか、という趣旨ですか。
請願者１	既に複数の小学校区を抱えている幼稚園があるので、そこの説明というのは難しいですが、ただ事例としては、吾妻小学校の高学年の PTA の

	保護者の方たちが非常に団結力が強くて、運営しやすいということを聞いておりまして、その理由が吾妻幼稚園で一緒だったからかもしれないと。吾妻幼稚園は送迎が必要なのですけれど、竹園西幼稚園もそうなのですが、保護者が顔を合わせることで繋がりを持つ機会になっていると捉えています。その保護者の繋がりを持って小学校に上がっていける、そういう幼小接続がうまくいっているから、そのあとの PTA 活動や地域活動にも保護者同士の繋がりを活かしてうまくできているのではないかという意見をいただいています。ですので、複数の小学校区を抱える幼稚園がだめと言っているわけではなく、そういう事例が、特に地域の繋がりが希薄になりやすい共同住宅の多いエリア、東京では本当にそういう地域の繋がり、隣も誰かわからないみたいな、そういう状況に陥りやすい、吾妻エリアにおいて、そういう地域の繋がり、ひいてはそこでできた保護者たちが地域の見守りの目のような役割を果たしているという事実もあるので、そういう価値のある公立幼稚園をなんかこう、小さく集約して入る可能性を狭めるべきではないのではないか、ということで書いております。
請願者２	それから、今の話では出てこなかったのですが、発達に問題を抱える子供たちも通っていまして、うちの息子もそうなのですけど、私立幼稚園で立派な目標を掲げるところに入園したのですが、結局それについていけなくて、竹園西幼稚園に受け入れてもらって元気よく通ったのですけれども、そういう子たちのお母さんたちがその子の特徴を十分理解してくださるので、そのまま小学校に行くと非常に馴染みやすい。例えばお友達同士が叫んでいても、あの子はちょっと時間が経てば落ち着くよ、とかっていうのを、周りのみんなが助けてくれるというようなメリットもありますので、発達障害の子供たちが、竹園西小学校に行って、吾妻小学校と竹園西小学校に分かれたときに、やはり竹園西小学校に行く方が強い繋がりがありますので、そういうところでは、発達障害のある子たちにとっては、不利だと思います。竹園西幼稚園から竹園西小学校、吾妻幼稚園から吾妻小学校のほうがより強い結びつきになりますので、親としても子供としても安心感があるとは言えると思います。
倉田委員	今のお話を聞いて、私もよくわかります。ただ、１つ聞きたいことが

	あります。つくばも地区によって差があると思うんですよね。例えば、長期的に見ても増加の見込みがないという状況もあると思います。そういうときに、つくば市自体で幼稚園の再編も含めて見直しを図るということは必要だと思います。だからその辺は地域の人たちにも理解を得ながら今後進めていくのは当然だと思いますが、そういう意味で、やはり地域差も考慮してつくば全体でどう考えていくか、私はこれも十分必要かと思います。ただもう 1 つ言いたいのは、少人数とはどこまでが少人数なのかということですが、私の考え方では片手ぐらいでは少人数ではないと思うんですね。やはり子供たちには、多くの子供たちと関わらせて、いろんな違いを知って自分の成長に結びつけていく。人を知るという、その繋がりやコミュニケーションが小さい子供にとってすごく大事だと思います。でも極端に多ければいい、少なくてもいいという、その辺の線引きは非常に難しいと思います。そこに置かれた環境によっても大きく違ってくると思うので。だからその辺も十分話し合って、納得のいく方向で進めていかなければならないのかなと思います。私も谷田部幼稚園の園長を２年勤め、吾妻小学校の校長もやりましたから、その地域の実状というのはそれぞれ違うんです。同じ公立幼稚園でも同じ学校に行くということはない場合が多いですよね。極端な話、谷田部幼稚園は、谷田部南小学校の校舎の中に入っていて、一緒に交流していても谷田部南小学校に就学するのは７～８人で、残りの 100 人は谷田部小学校に就学するんです。そういう状況もあるので、一概にそれが良い悪いという問題ではなくて、そういう繋がりをどのように結びつけていくかということも教育として大切だと思います。だからいろんなところに友達や知合いもいて、交流をさらに拡大していくということもあるので、学園地区も竹園・吾妻でそういうふうに分けるのではなく、その中でみんなが交流できるような教育のあり方というのを、私は模索すべきだと思っています。他の幼稚園ともすぐ交流できるんだ、だから吾妻幼稚園と竹園西幼稚園とかね、いつでも交流できるだとかね、そういう子供たち同士もいろんな関わりを持たせるような教育や経験を積ませてあげることが個人の成長に繋がると私は思っています。だからそういうことを考えた場合には、１つの地域だけの問題でなく、全体で考えた場合にどうしたらいいかっていうことが、一番重要になってくるのかなと。だから私は長期的に２人とか３人しか入ってこない地域はそのままでは絶対

	に良くないと思うんです。今の状況を打開しないと、このままではその子供がかわいそうだと思います。そのためには園の中で工夫して、合同でやるとか、地域と結びついて地域の施設の子供たちと繋がるなど、そういうふうにしていかないと本当にかわいそうだということは、理解していただきたいと思うんですね。だから、そういう実状も含めて、つくばも良い方向に再編していく必要が私はあるかなと思っているんです。どうでしょうか。
請願者１	ありがとうございます。もちろん私たちも、今回声を上げている幼稚園の保護者も、再編計画自体が全く必要ないというわけではなく、集約も地域によっては必要だし、それを希望する声もあるのではないかということはわかっています。ただ私立幼稚園の保護者の方からは、例えば通わせたのは私なんなのだけど、人数が多すぎて自分の子供がどうしているか全然わからないんだよね。先生と話す機会もないし、先生も忙しそうだから、うちの子どうですか、と聞いても、何か問題起こしましたか、と逆に聞かれちゃうぐらいで、全然子供の状態がわからない、という声をよく聞くんです。少人数だから必ずしも大人数だからいいっていうのは幼児教育の中ではないのかなとは思っているんですけど、私立幼稚園を選択するのもありですし、公立幼稚園を選択するというのもありかと思うのですが、今の状態ですとその選択肢にも公立幼稚園は上がらない、２年保育っていう時点で上がらないっていう状態なので、公立幼稚園のその地域の良さというのは、正直、保護者の方たちにはなかなか伝わらない状態なのかなと思っています。なので、余計に人数が減ってきて、私もそうですが、公立幼稚園の良さは実際に入園しないとわからないようなところが多分にあるなと思っております。子供の人数が多い頃から先生方はすごく地域の実状を理解して、時代の変化やニーズにも適応してすごく幼児教育の環境を整えてくれているなというふうに思うんです。私立に合わなくて公立幼稚園を選ぶという保護者の方もいるようなので、まずは選択肢として検討してもらうためには３年保育にしないと、実際の公立幼稚園のニーズというのはわからないと感じておりますので、先ほどお話があったように財政面の問題などもあると思うのですが、３年保育だったら公立幼稚園に入れたんだよね、預かり保育があったら入れたんだよねという、私立幼稚園に通わせている保護者の声

	は少ないわけではないので、それをやらずに人数が少ないから集約が必要だという結論に持っていくのは、公立幼稚園を本当にいい幼稚園だと思っているので、もったいないというふうに思っています。違う幼稚園から小学校に上がるというのも経験としてはもちろんあるんですけれど、私はつくばで生まれ育ってその後一度離れましたが、やはりつくばで子育てがしたいと思って戻ってきました。そういう家庭は意外とあって、吾妻幼稚園だけでも私以外に二家族、やっぱりつくば出身でつくばに戻ってきて、子育てをしているという家庭があるんです。私は並木幼稚園から並木小学校に上がってという、同じ仲間と同じ小学校に上がってという経験を元にしかお話できないのですが、そのような幼小接続で得た絆というか繋がりというのは非常に大きくて、その時の仲間とは今会ってもすぐに話せるぐらいなのです。そういうせっかく作ってきた繋がりのところを、谷田部幼稚園などのケースもあると思いますが、人数という数値だけで分断しないでいただきたいですし、幼稚園や小学校の時期は人格形成となどにも大きく関わってくるところなので、そういう繋がり得られる環境があるんだったら、それを活かし、工夫して残していただきたいなというふうにも思っています。
倉田委員	今の話はよく私もわかります。３年保育は、私は必要だと思います。これから公立幼稚園も、３歳児保育もやっていかなければならないかなと。そうしないとやっぱり求められる需要に、これからは対応できないと思います。私が一番危惧しているのは、保育園の方に流れ過ぎてしまって、幼稚園の魅力がなくなってきている。公立幼稚園の良さというのはあると私も思っています。だからそういう面でも、延長保育や３歳児保育とか、今後つくば市も考えていく方向で進めているのですが、少しでも早く実現できるように進めていく必要があると思いますね。そのためにも再編をうまく組み合わせて、少しでも需要に合った、求められるような公立幼稚園のあり方っていうのを模索していく必要があるかなと私自身は思っています。
手打委員	今回の請願書を提出した公立幼稚園の再編計画の見直しを求める有志の会というのは、吾妻幼稚園だけではないんですよね。これはつくばの公立幼稚園のすべての方々の代表ということで理解してよろしいのです

	か。
請願者１	すべてではありません。今回の再編計画について、拙速で見直しをしていただきたい、地域の実状にもっときちんと目を向けて話して計画を立てるなら立てていただきたいという保護者たちです。ですので、全ての幼稚園というわけではなく、保護者の集まりです。厳密に何人というのはカウントしておりません。
手打委員	どのくらいの園の方が関わっていますか。
請願者１	御参考というのもなんですけども、この時点で添付として出させていただいたのは、私たち吾妻幼稚園と二の宮幼稚園、それから筑波幼稚園の保護者の皆様です。そのあとにも、松代幼稚園と桜南幼稚園からも要望書を提出していただいております。
森田教育長	よろしいでしょうか。事務局の方でこの請願の方々からお話を聞いて、何か説明しておいたほうがいいことはありますでしょうか。先ほどちょっと私が気になったのは、日本語教室が吾妻小学校にしかないというところや、３年保育を導入しなかったとか、幼稚園を潰していくというような言葉があったのですが、これについてはちょっと違うのかなというところです。日本語教室はけっこうありますよね。吾妻小学校だけではなく竹園西小学校もありますし、学び推進課の方で何校ぐらいにあるかわかりますか。
久松学校教育審議監兼学び推進課長	９校あります。
森田教育長	ですから、吾妻小学校はもちろん充実していますが、吾妻小学校にしかないというわけではないということです。それから３年保育を導入しなかったということについては、どうでしょうか。
森田教育局次長兼学務課長	３歳児保育につきましては令和４年度に手代木南幼稚園、令和５年度に茎崎幼稚園ということで段階的には実施しているところでございま

	す。
森田教育長	検証という形で進めたけれども、茎崎幼稚園については、人口の減少以上に園児が減ってしまったということと、それから手代木南幼稚園についても、予想までの人数が増えなかったというところで、人を増やしてまでやれるという確証が得られなかったということなので、やらなかったということではないと私たちは捉えています。ここはその後の進め方の見解の違いで色々と御意見もいただいていますので、もっとやればよかったのにと意見もありましたが、人を増やすことがなかなかできなかったということは御理解いただきたいと思います。それから、幼稚園がなくなっていくということに関しまして、この「統合する」ことは「なくなる」ということではないんですよね。一旦休園という形をとりまして、その後の需要を見ながら、もし需要が多くなるのであれば再開するということでの計画としております。
森田教育局次長 兼学務課長	３歳児保育をやることによって期待通り需要が増えたら、また再開できるだろうと、そういう考えもあったということは、御理解いただきたいと思います。
森田教育長	「潰す」という考えでは全くなかったというところは、御理解いただければと思います。というところで認識合わせは大丈夫でしょうか。 よろしいですか。 ではこれから先、採択するかどうかについて話合いをしたいと思います。請願者の方は長時間に渡りまして、丁寧に御説明をいただきまして本当にありがとうございました。では、退席をしていただきたいと思います。傍聴席にいらっしゃるのは結構です。 では審議に移りたいと思います。２つの請願事項、２つ要望事項ありましたので、その１つ１つについて吟味をしたいと思います。 まず 1 の拙速な計画決定をしないこと、ということについて、まずは事務局の考え方を、この前の全員協議会では見送りますというようなことになっておりますので、その辺も含めて説明をお願いしたいと思います。

森田教育局次長兼学務課長	つくば市立幼稚園に関するあり方の検討、委員長の提言に基づく再編計画ということで、昨年度から始め９月半ばまで説明会等を実施して参りました。その中で、地域の方々から十分に意見が把握できてないのではないかというような声が多く寄せられている状況も踏まえまして、再編計画につきましては、９月 19 日につくば市議会全員協議会を開催いたしました。再編計画案を市民の皆様にお知らせする期間が短かったこともありまして、戸惑いの声や不安の声が寄せられました。不安の声を寄せる皆さんも決して市立幼稚園の集約自体に反対されているわけではありませんが、最も多く寄せられたのが、短期間で早急に計画を策定することに対する戸惑いの声でありました。そのために、再編計画案につきましては、再来年度からの実施を予定していましたが、早急に決断結論を出すことは見送り、もう少し時間をかけて一部内容の見直しをしていくことといたしました。従って請願内容 1 につきましては、すでに現実となっているという状況であると考えております。
森田教育長	今の説明に関して、委員の皆様から何かありますでしょうか。
手打委員	今の御説明で、全員協議会で方針が決まっているから議論の余地がない、そういう理解というのはどうなのですか。
森田教育長	議論の余地はないということではないですけど、現実的な面としては、そういう方向で進んでしまったと。そういう中で委員の皆様はどのようにお考えになりますかということになってしまうのですけれど、いかがでしょうか。
手打委員	私は全員協議会の結論がどうあれ、今回出された請願及び請願書や添付資料、そして９月 17 日の説明会は傍聴させていただきましたけど、その中で感じたことは、市民の皆さんが不安に思って、説明や議論が不十分だと感じているということについては、そうなのだろうなと思います。やはり十分に議論する期間が短かったし、それからあり方検討委員会から出された案をキャッチボールする時間と言いますか、原案に対して市民との間のキャッチボールというのは、もうちょっと必要だったのではないかなと思います。そういう意味では、やはり、１については、

	十分議論を尽くすということをやっていくべきだというふうに思います。
坂口委員	１についても要望通りになる方向ということなのですけれど、私もこの間の説明会を傍聴させていただいて思ったのが、確かに短期間ではあったなというのはすごく感じました。 市民の方への進め方の意見交換ですとか、意見を聞いて反映させるですとか、そのスケジュールの内容をどうやるかっていう感覚の違いがすごくあったのかなというふうに感じました。なので、十分な議論とは何かっていう部分が、結局時間を延ばしても同じようになってしまうのではないのかなというのを感じています。実際にその意見交換会の場合の意見交換というのがその場で聞くだけのものなのか、それとも聞いてフィードバックして、もう一度それについて話すという感覚のものなのか。例えばこれが採択となったとしても、それをまた同じようなことにならないように、その感覚的な部分の違いはどういうものだったのかなっていうのは、1 度検証といいますか議論の必要があるのではと感じます。これだけ公立幼稚園の良さですとか、本当に人数が少なくなっている中で地域性ですとか、熱い思いの声が上がっていますので、皆さん一緒になって議論しましょうよという声だったように感じますので、そこの部分を事務的な進め方ではなく、何というのでしょう、温かさっていうんですか、そこの部分っていうのはどういうものなのかというのを一緒になってやっていく方法を考えた上での採択になったらいいなと先日思いました。
手打委員	今の坂口さんは感覚とおっしゃいましたが、感覚ではなくて、原案提示等そして意見を反映させて修正するなど、市民と市のやり取りがもう少し必要だったという、そういうルールを作っていく必要があるんじゃないかっていうことですよね。
森田教育長	そこはお２人でも共通の部分かと思いますね。 他はいかがですか。
和泉委員	私も今までの経過をいろいろ資料を見直してみまして、あり方検討会

	の会議録を読んだところ、第１回と第２回は、今から検討します、いろいろ参加者から公立幼稚園のよさであるとか熱い思いが結構自由に交わされていたと。第３回２月 19 日のときに、イメージとしてその集約案が提示されました。確かに提言を策定する過程で何かしらの具体性がないと、事実、共通認識がすごく大事ですから、そこを提示することは大事というか必要だったんだろうと思うのですが、この第２回から第３回への飛躍が委員の発言からもうかがわれて、１つの案として提示された後、集約案がどうなっていたかというのを辿ってみると、そこに保護者とか地域住民の意見が反映されたのかっていうところが今問われてると思うんですね。２月にそういうイメージですというのを示されて、２月 25 日の総合教育会議、その１週間後のときもそのイメージ案を見ました。６月 12 日の定例会でこれあくまで資料として提示したものですという答弁が局長からあり、そのあと、６月 18 日以降に幼稚園で説明が始まったところ、その案を提示、そっくりそのままかどうかというと私も一語一句照らし合わせたわけではないですけれども、やはり大幅な部分はもう２月のものだったのではと思っても致し方ないのかなという印象は抱きました。なので、ここまでの間のそのプロセスをやはり保護者、地域住民の声の反映がどうだったかということに注力して、この請願をどう扱うか考えたらいいのではないかというふうに思いました。
倉田委員	再編に関しては、やはり進めていく必要があると思います。ただ、十分な検討をして納得してもらってやるというのが一番望ましいかなと思っています。
森田教育長	和泉委員のお話であれば、あり方検討委員会の中でも、住民の声を聞くべきだったのではないという御意見なのでしょうかね。
和泉委員	そうですね。委員の会議録を拝読したところ、その中にどういう役職か明記されていなかったので、現在の保護者なのか、OB なのかわかりかねるのですが、そこには一定の保護者の声があったと感じました。
森田教育長	なるほど。今の御意見に、事務局の方で何かありますか。

森田教育局次長 兼学務課長	検討委員会の中でお示ししたイメージについて、それがあたかも決まったような形で広まってしまったということで、６月に保護者の皆さんに説明する際には、あくまでもイメージですということでお話しながら説明した次第でございます。そういったことも含めまして今回戸惑いの声や不安の声が寄せられたことがありましたので、全員協議会で計画についてもう少し時間をかけて一部内容の見直しを行っていくという形にしたと捉えております。
森田教育長	イメージとは言え、形が示されたことによって、不安を与えてしまったというのはあったわけですよね。ではどうしたら良いか、どのように進めたら良いのだろうかということも、難しいところではあるのですが、そこを今後工夫しなければいけないと思います。請願の方からも、統合ということについて全面的に反対するものではないと、その進め方についての色々な不安などがあったんですというところで、皆さんの御意見と請願者の方々の意図が一致しているのではないかというふうには考えられます。そういうことからしても１については、いかがいたしましょうか。採択ということでよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、１についてはこのまま採択をさせていただくということで進めたいと思います。 では２の方に進みたいと思います。２については、人口動態、それから就学前の児童のみ児童数の見直しなどの根拠データを示して、意見も反映して計画を策定することというのが要望事項ですけれども、これに対して事務局で考えていることをまず説明していただいてよろしいでしょうか。
森田教育局次長 兼学務課長	学務課では、つくば市学校等適正配置計画・指針を作成しておりまして、未就学児童数の推計を行っていますが、これまで人口増加が続く中、幼稚園を選択する方が減り、園児数の減少が続いているところです。地域単位で見ましても、TX 沿線の開発地区であったり、マンション建設等によりまして、未就学児童が増加した地域においてもその傾向が

	ある状況です。要因については人口のみでなく、共働き世帯の増加に伴う低年齢からの長時間保育のニーズへの変化や、他の保育施設など地域の特性、実状、あとは３歳児保育等が未実施であることが理由として考えられますが、状況が変化する中で、市立幼稚園の将来需要を適格に見込むことは非常に難しく、過去の実績からの推計をもとに、将来推計を要素予測を立てているところでございます。 　また、令和９年度から３歳児保育を竹園西幼稚園、大穂幼稚園で実施し、３歳児の就園状況も変わることから、現時点では計画としての推計データを積極的に提示するのではなく、児童推計を適宜見直していくことが望ましいと考えています。 　また、保護者や地域住民の方の意見の反映につきましては、現在もそれぞれの園や地域の方から個別に個々に要望をいただいている状況です。全体の総意というわけではなく、個々の要望であることから、すべてを計画に反映させることは難しいものと考えております。
森田教育長	そういう状況でなかなかその人口動態だけでは難しいというところと、全体的に１つの計画として組むのはなかなか難しいというところでしょうか。そういうふうに事務局が考えているということですが、それに対してまたこの要望事項も考えて御意見がありましたら、お願いしたいと思います。
手打委員	今の御説明でよくわからなかったのですが、計画案を作っていくに当たりまして、人口増加に伴って未就学児は増加しているというデータはあるわけですね。未就学児がそのまま公立幼稚園を希望するというふうにはなっていないというデータもあるのですか。
森田教育局次長兼学務課長	全体で未就学児の人数というものがありまして、その中で今公立幼稚園に何人来ているのかということはデータとして持っておりますが、保育園や私立幼稚園に行っているという個別のデータは持ち合わせておりませんので、あくまでもそのエリアの中で、例えば今回、１つの幼稚園の方から要望がありましたけれども、１つの幼稚園ではなく市立幼稚園に何人通っているかということでのデータは持っているところです。

手打委員	それは現状の話ですよね。現状の人数はわかりますが、一方で地域によってはマンション等も建てられたりして人口増が見込まれて、それに伴って未就学児も増加するだろうという予測、それとその子供たちが市立幼稚園を選択するかどうかというのは別ですよね。そういう保護者へのニーズなどは聞いているのですか。
森田教育局次長兼学務課長	実際に就園される方の調査というものはしておりません。あくまでも過去に子ども子育てアンケートの中での要望調査という形を今回ニーズの根拠としております。
手打委員	ですから、先ほど請願者から御説明がありましたように、そういう統計データでは漏れているというデータに対して、地域によってはこれから増えていくだろうというこれはある意味では感覚的といいますか、ちょっとこういう言い方をすると失礼かもしれませんけれども、そういった地域の声はあるわけですよね。だからそこのあたりの突合わせみたいなものも必要なのではないかなというふうに思いました。当事者の方々は市が進めることに対して違和感があるのではないかなと思いました。
森田教育長	将来の就園者数を調べる方法というのは何かあるのでしょうか。
手打委員	先ほどの請願者たちの説明によれば、今、市立幼稚園は２年保育なので、これを３歳児保育にすることによって、要望がもう少し明確になるのではないでしょうか。新たに入ってくる人たちに対して、市立幼稚園の３歳児保育という制度を明記することによって、推計自体が少し変わってくのではないかと私は受け取りました。
森田教育局次長兼学務課長	まさに委員のおっしゃる通りで、３歳児保育を来年、竹園西幼稚園と大穂幼稚園で実施しますので、そういった３歳児の就園状況も変わることから、現時点での推計データではなく、推計データを見直していきたいと考えております。
森田教育長	あくまでも推計データは考えられるというとこですね。実際にニーズ

	としてのデータを取るのはなかなか難しいというとこですかね。
倉田委員	私も３年保育にすれば幼稚園入園者数が減ることはないと思います。ただこの増え方が、地区によっても違うだろうし、どういうふうな状況になるかという把握は非常に難しいと思います。ただ、今の状況を見て言えるのは、保育園に入れたら０歳児保育から始まるので、そこから抜け出して幼稚園に移るということはほとんどないんですよね。だから、つくばも保育園がものすごく増えているんですよ。その辺のバランスというか、状況把握はどういうふうにとらえたらいいかというのは、非常に難しいなと思います。今の子育て世帯が０歳から預けないとなかなか難しい状況の人達が非常に増えているので、その辺りの需要と供給をどのようにつくば市で把握するかというのは今後の課題かなと思います。
坂口委員	データに関しては非常に難しいなと私も感じます。確かにこの３年保育や預かりがあれば公立幼稚園に行くのに、という声は皆さんおっしゃっていたように私も聞くんですよね。そういった声の割合はどんな調査で出てくるのかというのが非常に難しいなというふうに思います。このあり方に関する提言の中で、アンケート調査ですかね、ここに出てくる３年保育と預かり保育に関する保護者のニーズ調査の結果をもとに、今回いろいろと方向性を考えたっていうことでよろしいですか。
森田教育局次長兼学務課長	今回提言を検討するに当たりましていろんな要因を考えたのですが、アンケートとして使用しましたのが、令和５年度に実施しましたつくば市子ども子育てアンケートで、これは５年に１度、就学前の保護者を対象にしてアンケートを実施しているものでございます。
坂口委員	もしかするとつくば市全体で調査した場合は結果が混ざってしまうので、地域ごとに調査するのとは大分違うのではと思います。ですので今回、集約する場所としない場所も含めて人数の差はありましたし、地域においての役割というのも意見としてありますので、この３年保育や預かり保育に関するニーズ調査も地域性が大分あるのではと感じました。それに関するアンケート調査が可能なものなのでしょうか。最初の予算計画の段階ですと、表現はどのようになっていますか。

和泉委員	今の坂口委員の発言に関連しますが、今回、請願者の吾妻幼稚園と筑波幼稚園の状況については、非常によく理解できました。ただ私が非常に懸念しているのは、ここに表れていない集約の対象になっている幼稚園の意見や、対象になっていないけれども、もう公立の幼稚園しか通えない子供の保護者の声をどれだけ拾えているのかというところが、いろんな資料を見ても難しいなという実感があります。したがって、坂口委員もおっしゃったように、その地域ごと或いは幼稚園毎のアンケート調査をもう少し徹底して行うことも、必要なのではないかと感じています。
森田教育長	確かに地区によって全然状況が違うというのは、今回の大きな部分だと思います。吾妻幼稚園のような、今後人数が増えるだろうと思っている地域もあれば減るだろうというところもあります。それを一律に私たちが計画として出してしまったというところに反省点があるのかなとも思います。しかし、やはり地域ごとにもう少し計画を進めるべきだったのかなというところもありますが、その辺り学務課はどうですか。
森田教育局次長兼学務課長	まさに、今回１つの反省としまして、地域ごとにということがあったかと思います。アンケートの内容についても、バックデータを見れば地域属性など紐づけがあるかもしれませんので、そういったことも含めまして、ニーズデータをどのように作っていくかというのは今後の課題かと思っております。
森田教育長	ここに書いてあるその具体的なデータを検証提示し、というところが今後相当研究しないといけないという状況ですね。
手打委員	第２項目の請願については、確かに数量的なデータをどのように捉えるかというのは検討する余地があるのではと思います。それとともに地域の肌感覚というか、統計的なデータには出てこないけども、地域の人たちが地域のネットワークの中で持っている情報を活かしていくというやり方も、合わせていく必要があるのではと思います。ですから、今お話があったように、地域によって公立幼稚園を必要としているところと

	再編しても問題ないところと、それぞれの地域需要がありますので、それを含めて検討していく必要があると思いました。
森田教育局次長兼学務課長	地域ごとにということについては、どのようにしてやっていくことがよいのか、今後考えていかなければならないと思っているところです。
森田教育長	地区によっては、統合してくださいっていう声がないわけでもないという中で、一律全部延ばしていくことが最良なのかというと、そうでもないような感覚を私は持っています。地区によっては早めにやったほうがいいところもあるのではと思うので、もう少し地域別に考えていくことが大事かなと思います。 時間も大分押しておりますので、これをそのまま採択という形で良いのか、それとも今のような進め方については研究協議させてくださいという意味で趣旨採択という感じになるのかなと思います。委員の皆さんの感覚としましては、その辺はいかがでしょうか。
和泉委員	私も保護者や地域住民の意見も反映した計画を策定すること、これ何もゼロベースで策定と言っていることではなくて、今日の話ですとか説明会を聞いていて、今ここから議論とか対話は始まっていという実感を持ちました。なので、これを反映させながら計画を策定することには同意すると。そうであれば、これは採択の方がいいんじゃないかと考えます。
坂口委員	私もこの分析要望事項の内容に関しては、採択にしても趣旨採択にしても、内容としては、やる方向ではありますし、これから議論するものっていうことではあると思うんですね。そう考えると、採択した上で、その詳細の部分があまりないので、それについては今後検討議論していくものだと思いますので、採択っていう形でもいいのかなと考えます。
森田教育長	では２番も採択ということにして、ただし、その内容については十分に検討させてくださいというようなところでしょうか。ということであれば、１つの請願書として採択か不採択かということになれば、全体と

	して採択すると。そして、２については研究をさせていただきます、というところの注釈付きで採択をするということになると思いますが、そのような形でよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	ではそのように進めさせていただきます。請願書は採択するということにいたします。ただし、細かい点についてはわかっていないので、細かいところのデータの取り方やニーズの取り方については十分今後研究しますので御理解ください、ということでよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	ではそのように進めさせていただきます。 長時間にわたって請願書についての議論及び審議をいただきました。ありがとうございました。
(4)報告第 34 号	臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開）
(5)報告第 35 号	臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開）
(6)報告第 36 号	臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開）
(7)報告第 37 号	臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開）
森田教育長	では通常の教育委員会の議題の方に移らせていただきたいと思います。 それでは最初に非公開案件の方から進めたいと思いますので、傍聴人の方は一度退席をお願いいたします。 それでは非公開案件を進めさせていただきます。報告の第 34 号から報告の第 37 号、これは同様の案件ですので一括して教育総務課から説明をお願いします。
山岡教育総務課	（議案に対する説明）

長	
森田教育長	ただいまの説明に関して質問や確認事項ありましたらお願いしたいと思います。 よろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、報告の通りとさせていただきます。 非公開案件はこれで終わりましたので、公開の案件を審議したいと思います。傍聴人の方いらっしゃれば御案内ください。
(2)議案第 49 号　諮問について（公開）	
森田教育長	それでは公開案件につきまして、まずは議案の第 49 号になります。生涯学習推進課説明をお願いします。
澤頭生涯学習推進課長	議案第 49 号諮問について御説明させていただきます。 社会教育法第 17 条第１項第２号の規定により、社会教育委員に対し、コミュニティ・スクールを支える地域のあり方について諮問するため、議案を提出いたします。今年度から全 18 学園に法に基づくコミュニティ・スクール協議会を導入しましたが、今後は地域住民と学校が双方向に支え合う関係を築くため、従来の地域とともにある学校づくりだけではなく、学校を核とした地域づくりにも意識を広げ、地域の多様な人材と人々との協働を促進する必要があります。このような状況を踏まえ、コミュニティ・スクールを支える地域のあり方について、社会教育委員に諮問し、意見や御助言をいただきたいと考えております。答申は令和９年８月ごろを目途にお願いし、その後の事業推進に反映させていきたいと考えています。答申が出ましたらまたこの教育委員会議におきましてご報告させていただきたいと思っております。以上です。
森田教育長	ただいまの説明に関して質問や確認事項がありましたらお願いします。事前にも皆さんにもご意見いただいておりましたので、これでよろしいですか。
委員一同	はい。

森田教育長	では異議がないようですので、これで承認とさせていただきます。
(3)議案第 50 号	つくば市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について（公開）
森田教育長	続いて議案の第 50 号になります。学務課から説明をお願いします。
森田教育局次長兼学務課長	議案第 50 号、つくば市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について説明いたします。１、改正理由につきましては、市立幼稚園における３歳児保育については４年度から手代木南幼稚園にて、令和５年度から茎崎幼稚園にて実施しています。３歳児保育は保護者のニーズがあり、つくば市立幼稚園あり方検討に関する提言も踏まえまして、令和９年度から大穂幼稚園及び竹園西幼稚園で新たに３歳児保育を開始するため、規則を改正するものです。改正内容についてはお手元の新旧対照表を御覧ください。第２条で、３歳児の入園資格について、大穂幼稚園及び竹園西幼稚園を追加します。別表で大穂幼稚園及び竹園西幼稚園の定員を変更します。施行日については、令和９年４月１日から施行いたします。以上、よろしくお願いいたします。
森田教育長	質問や確認事項ありましたらお願いします。
和泉委員	説明ありがとうございました。規則改正というのは必要に応じてすぐに行えるものですか、それとも一定の期間前倒しで必要なのか、その辺の必要な時間の流れを知りたいと思いました。
森田教育局次長兼学務課長	まず、今回この９月定例会に規則改正を出しましたのは、10 月から募集を開始するということがありまして、それに合わせての改正となります。期間につきましては、一定程度法律相談等の期間が必要となりますので、そういった時間を考慮しながら改正を進めているところでございます。
森田教育長	募集のためには規則改正が必要だったというところです。
和泉委員	基本的に１年に１回でしょうか。原則はそうなってしまう。と言うのは、先ほどの議論に戻りますけれども、もし他でこの３歳保育の要望が

	大至急やらないと、という状況になったときにも、改正はできるのでしょうか。
森田教育局次長兼学務課長	年に１度という決まりありませんで、一定期間の時間があれば、改正は可能でございます。
森田教育長	逆に、来年からやってくださいっていうことになったらもう、すぐに改正しなくてはいけないということですね、１年置いてやってくださいって言っても、来年の今頃はもう変えなければいけないというところですね。 よろしいですか。では他は質問ないようですので、承認してよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、承認するものとさせていただきます。
(8)報告第 38 号	臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の人事発令について）（公開）
森田教育長	では報告の 38 号、教育総務課お願いします。
山岡教育総務課長	報告第 38 号、臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について説明いたします。職員の人事発令についてです。９月１日付けでは記載の通り、健康教育課長について中央図書館長との兼務の人事発令を行いましたので、報告するものです。以上です。
森田教育長	いかがでしょうか。特によろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、報告の通りとさせていただきます。 これで審議すべき案件は終わりです。
５　その他	
森田教育長	「その他」になりますが何か事務局からありますか。

	あとは委員の皆様からは、いかがでしょう
和泉委員	いじめの案件について諮問を出していて、そろそろ答申が出るのかなと思うのですが、その進捗状況はいかがでしょうか。
久松学校教育審議監兼学び推進課長	提言の方もある程度仕上がっているのですが、今最終調整に入っております。年度内には出せるかなとは思っておりますが、なるべく早めにと考えております。
森田教育長	慎重に進めたので結構時間がかかりましたよね。委員の皆さん熱心で本当にありがたいです。 他はいかがでしょうか。
和泉委員	質問ではなく、先ほどの請願の議論の感想なのですけれど、私にとっては、毎月１回会議を開いて不登校支援施策を作っていったというのが、あれこそ丁寧に行政側と保護者や専門家の意見を反映させながら議論をして、作れたという１つの成功体験のようなものを感じているんですね。なので、この幼稚園のあり方も必ずそれができるというか、あり方検討会の会議録を読んですごくよくわかりましたけれども、いろいろ今後こういう保育がありますとか、具体例を出しながら説明している様子も理解しましたので、今度はそれをもう少し広く当事者である保護者に、懇切丁寧に伝えることをやっていけば、必ず良い施策ができるのではないかと感じていますということを、伝えたいと思いました。
森田教育長	ありがとうございます。今度は時間もできましたので、進め方も少し慎重に考えたいと思いますが、私としてもその人数を見たときに、非常に焦ったというのは正直なところです。１学年３人とか４人しかいないという中で、これで本当にいいのかということに非常に疑問を持って、これはすぐにでも改善してあげないと子供たちがかわいそうだという思いになってしまい、みんなで早急に進めようと言ってしまったのもあるのですけれども、確かに周りから見れば乱暴だったなという、そういう私たちの思いを伝えるチャンスもなかなかなかったのだなと、今では思っています。でも本当にこのままいくと、来年また応募が少なくなっ

	て一桁の幼稚園ができてしまうと、これについては本当に心配しているところです。園児数が３人や４人の幼稚園で本当にいいのかという、それで子供の成長のために本当にいいのか、というのはすごく疑問を持っていますので、逆に言うと、この前、園長先生にもお話したのですが、計画を見送るということは、それだけ難しい教育を求められることになったというところもありますよと。少人数でもそういうことをカバーしなくてはならない。そういうことをまた工夫して進めることが責務になってしまいましたから、そこはみんなで知恵を絞ってやっていきましょうと。だから、統合はできないけれども、幼稚園同士の交流なども考えながら、子供のことを考えて進めていきましょうという話をしました。そういう中でまた皆さんに御意見いただいたり、保護者のニーズをしっかり調査したりして、進められればと思います。そして、教育委員会の方でもその都度状況を確認したり、時には臨時の会議を持ったりして進めていければと思っていますので、また御協力のほどよろしくお願いいたします。
６　閉会	
森田教育長	それでは以上をもちまして、令和８年９月定例会を閉会します。長時間にわたりましてありがとうございました。

◎会議録の調製

署名年月日	令和８年（2026 年）10 月 23 日
調製者	久保田　靖彦